

## 神戸市上下水道事業審議会 第5回 専門部会（平成27年10月29日）議事要旨

※冒頭、部会長が所要により欠席のため、審議会規則第8条第5項により瓦田委員が代理する旨、事務局より説明。

### 議事 専門部会のまとめ（案）について

はじめに

#### I 検討の背景

#### II 今後の水道事業の方向性

##### 1. 厳しい事業環境への対応

##### 2. 事業の方向性

(1)安全で上質な水の供給

(2)水源・施設整備のあり方

(3)災害対策の充実

(4)社会環境の変化に適応した事業運営

(5)市民とともに作る豊かな生活

おわりに

### 1. 専門部会のまとめ（案）について

「はじめに」 「I 検討の背景」

（委員）

「はじめに」で「今後10年間の水道事業の方向性」とあるが、表紙に「今後の水道事業の方向性」とあるのだし、今後10年間に限るわけではないのではないか。

（水道局）

第1回の検討委員会の議論で「今後10年間」とした。現在のビジョンでは「10年間」ということは明示されているが「50年後、100年後の将来を見据えて」というのは入っていない。今回も10年間のビジョンとするが、大きな転換期であるところが前回と異なっている。50年間や100年間のビジョンだとあまりにも長期なので、これを見据えたうえでの10年間ということだ。

（委員）

逆に言うと、「50年後、100年後」を見据えるのに、どのようなデータに基づくのか？10年間というのは想像がつくのだが。

（水道局）

国からは、アセットマネジメントの手法ということで、投資計画と財政計画の両方を視

野に入れつつ検討するよう指示されている。期間は 40 年と示されていて、私どもの施設、つまり土木構造物や管の耐用年数はおよそ 80 年～100 年なので、長期的な視点から投資計画、財政計画を策定している。その際でも、例えば物価上昇など、不確定要素は多々あるが、国の数字をバックデータとして検証している。

この答申案にある浄水場の集約や、広域化、つまり近隣都市との連携等、もちろん今でもやっているが、今後はかなり大きなことを考えていく必要がある。大きな転換期ということで、相当な長期の未来を見据え、大きな舵を切らなければいけないと考えている。

(委員)

参考意見として聞いていただきたい。私も「50 年、100 年先」に違和感を抱いた。今から 100 年前といえば明治の時代だ。明治の時代の人たちは現在の状況を予想できたであろうか。全くできなかったと思う。最近だと、パソコンなどエレクトロニクスの分野で格段の進歩を遂げていることを考えても、われわれが 50 年、100 年先を想定するのは大胆すぎる。

(部会長代理)

他の自治体においても 50 年間というシミュレーションはよくある。特に人口の減少が大きな要因になっていることや、施設などは 80 年という非常に長いスパンで考える必要があり、しかも多額のお金がかかることから、他の自治体でもその辺りを考えながらやっている。ただ、非常に長いスパンで不確定要素も多いため、その中での今後 10 年間のことを決めていく、ということは一般的に行われている。

(委員)

「災害対策」で阪神大震災、東日本大震災、南海トラフ巨大地震の話がまとめられているが、災害対策ということであれば、水害なども加えるべきではないか。次のビジョンでそういった項目が追加されれば、これまでとは少し違うことを出せるのではないか。

(水道局)

その点もつけ加えるようにしたい。巨大地震のような大きな災害以外で、最近起こっているのが、川沿いの管が水害で流出するケースである。バックアップで管を布設するだけでなく、小さな水源も大事にしていく必要があるのではないか。水源の統廃合の話がある一方、土砂災害に備えて、分散させる要素も残していかなければならないということだ。

(委員)

「水需要及び給水収益の減少」に「人口減少の影響から拍車がかかる」とあるが、もう一つ、原単位の減少もある。節水機器の普及や、ほとんどすすぎを必要としない洗剤などの節水技術の発達、さらに高齢化社会の到来によって水の使用量が少なくなっている。もちろんライフスタイルの変化等も減少に拍車をかけていると思う。人口減少ももちろん大きな要因だが、今後さらにこういったことが影響してくると予想されるので、水需要、給水収益の減少をより強く表現するために、そういった要因も加えてはどうか。

(水道局)

市民に認識していただくためにも、もう少し詳しく書くようにする。

## 「Ⅱ 今後の水道事業の方向性」

### 「1 厳しい事業環境への対応」

#### 「2. 事業の方向性」 「(1)安全で上質な水の供給」

(委員)

「安全な水の供給」の表記の中で「利用者にも適量な水道利用を求め」れば、管内の水の流れがよくなって、滞留抑制ができるという事だが、利用者に求めるのはいかなものか。

神戸市では、滞留抑制だけが原因ではないが、配水されたうちの数%、数万 $\text{m}^3$ の水道水を放水して捨てている現状である。滞留をコントロールするため、放水がやむを得ない面もあると思うが、その部分を利用者に協力を求めるのはいかなものか。こうすればいいという私見があるわけではないのだが。

(水道局)

この点については、踏み込んだ表現をしている。

神戸市では地下水利用者について適正利用を求めるため、固定費負担をしてもらっている。この制度は、水道を使っただけだと水質が悪くなるというのが大きな根拠であり、全国でも神戸市が最初ということである。実際は、配水管網の再構築を進めていく途上で、滞留の問題が出てくるため、放水をやらざるを得ない状況ではあるが、思い切って市民には訴えて行きたい。

また、節水は美德ということになっているので、水を使ってくれとはなかなか言いにくい、適量使わないと水質に影響しますよ、という形で、一緒に使っていただけたらと考えている。

なお、洗管としての滞留水の放水は、平成26年度では0.7%、水量は130万 $\text{m}^3$ である。

(委員)

「安全な水の供給」と「上質な水の供給」で分けているが、「安全」と「上質」の違いは何か。また、分けた結果、「安全な水の供給」のための主な手段が利用者の適切な水の使用に頼らざるを得ないとするのは違和感がある。

安全・上質な水の供給という中で、水源の保全や滞留水の解消といった構成にした方が分かりやすいのではないか。

(水道局)

利用者の適正利用の点も含めて、調整させていただきたい。

(委員)

答申の途中で出されている「副題」をもっと大きく打ち出した方がいいと思う。

(水道局)

副題の挿入位置は検討が必要と考えている。表紙のタイトルの下に入れば一番大きく見えると思うがどうか。

(委員)

副題の意味、どういう経緯でこれを取りあげたのか、できれば本文と関連するところを持った方がいいのではないか。見た感じだと、P5の「厳しい事業環境への対応」の最後の部分「利用者と水道事業者が互いに理解を深めながら、将来に渡って安定的に安全な水を供給し続ける水道事業を築いていかなければならない」というのを易しく言ったのが副題になるのではないか。スローガンであるということを明記した方がいいように思う。

(部会長代理)

ということは、前に持っていった方がいいのか、このままでいいのか？

(委員)

今後、こういうモチベーションでやっていきますよというような、もう一文を追加してもいいのではないか。

(水道局)

副題については、委員の皆さんから付けてはどうかというご意見があり、副題の意味としては、大きな転換期であり、未来につないでいくということで、市民の皆さんに情報を提供し、一緒に考えていっていただく必要がある。

また、少ない人口で負担していく必要があるので、そういったことも考えていく必要がある。

もう一つ、地域という点で、防コミを始めとした地域の皆様と一緒に災害対応を図っていく必要がある。

今後の展開として一番大きいのは、更新をする際に一都市だけではなかなか難しい。これは広域連携で近隣の都市と一緒に考えていく必要がある。

こういった所が、いただいたご意見の中で大きいと考え、副題をつけた。

もう少し副題を説明してはどうかというご意見であるので、その方向でさせていただきたい。いちばん目立つということで表紙に副題をつけよ、ということであれば、そうさせていただきたい。

(部会長代理)

表紙を見ると、「今後の水道事業の方向性について」（次期「神戸水道ビジョン」にかかる施策の方向性）－専門部会 まとめ－となっているが、ある意味、非常にそっけない。なので、副題は表紙に持ってきた方がいいのではないか。ただ、あまりゴチャゴチャし過ぎるのもよくないので、表紙の真ん中にドンと存在感があるようにしてはどうか。

（水道局）

今回「はじめに」の他「おわりに」というのも付けている。ここにもう少し、この副題に合わせたようなものを書き加えることも考えられるので、「おわりに」を先に説明させてもらう。

「おわりに」

（部会長代理）

この「おわりに」で、副題「市民・地域とともに未来につなぐ神戸の水道」の内容を少しつけ加えるという形で修正を加えるということでしょうか。

（委員）

「おわりに」を先に説明しなければならなくなったということは、そもそも構成上の問題があるからではないか。通常、「おわりに」というのは謝辞や、簡単なコメントのことである。

「はじめに」の後ろにこの「おわりに」の文章が続いていても、全く違和感はない。副題の「市民・地域とともに未来につなぐ神戸の水道」の内容も「おわりに」に入っており、Ⅱでこれを出さずに、「はじめに」あるいは表紙にこの副題を持って行って、すぐに「はじめに」の末尾に基本姿勢が書いてあれば、きれいにつながる。

また、この「おわりに」には非常に重要なことが書かれている。重要なことは最初に持ってくるべきだろう。最後だと疲れ果ててしまっていて、きちんと頭に入っていない。

（水道局）

今後ビジョンを作るときには、答申の「おわりに」の内容が冒頭にくる形になると思う。

答申自体は、最初に、諮問した内容として「はじめに」があつて、最後の「おわりに」で委員のみなさまから鼓舞していただいて、という形で考えている。

こうすべきということが決まっているわけではないが、答申の性質上、諮問の時はまだ内容がはっきりした形になっていないので「おわりに」の内容を最初に書いてしまうのはおかしい。

（部会長代理）

副題は重要だというご意見が多い。やはり、表紙に持ってくるということによろしいか。

(委員)

組み立てとして「おわりに」ではなく「まとめ」として、今、問題になっている副題は「まとめ」の副題としてはどうか。

(水道局)

では、「おわりに」を「まとめ」として、後ろの方にカッコ書きで副題が出てくるような形にさせていただく。

(委員)

いや、私は表紙に副題をつける方を支持する。やはり「市民、地域とともに」ということがこれからの時代、非常に大事になるということだ。後ろの「市民とともにつくる豊かな生活」のところでも「市民」という言葉が使われているが、これは大変重要なことだ。

(部会長代理)

副題の位置の意見は二つに割れてしまったが、「おわりに」を「まとめ」として、副題は表紙に持っていく、ということではいかがか。やはり、この副題は重要な意味を持っている、というご意見もあるし、先ほども言ったように、今の表紙だとそっけないので。

「まとめ」の文言については事務局、部会長と調整して決めたい。よろしいか。

<異議なし>

「(2) 水源・施設整備のあり方」 「(3) 災害対策の充実」

(委員)

「顕彰」と書いてあるが「継承」の間違いではないのか。

(水道局)

「継承」つまりモノとして残していくという意味もあるが、もっと市民に歴史的遺産としてPRしていく、という意味を込めて「顕彰」という言葉を使った。実際、今でもそこを巡るハイキングやトレイルなどを通じて、まちづくりなどいろいろなものにつなげていけないかということもあって、「顕彰」と書かせていただいた。

(委員)

「リスクとコストのバランス」は「リスク対応とコストのバランス」の方がいいのではないか。

また、「水道の水質は一定レベルに達しており」の部分、最初これは「水質基準上のレベル」と思っていたが、ここは「7割の利用者の満足度」を受けて、一定レベルに達しているという「評価」の話なので、分かりやすくするためにも、ここは「市民の水道水質に対

する評価は一定レベルに達しており」にした方がいいのではないか。

(水道局)

修正させていただく。

#### 「(4) 社会環境の変化に適応した事業運営」 「(5) 市民とともに作る豊かな生活」

(委員)

前回、全体の構成について、私からご意見を述べさせていただいたが、今回「はじめに」「おわりに」を付けたので課題や方向性が浮き彫りになり、特に今後の事業運営に関するところは分かりやすくなったと思う。

その中で「料金体系の見直し」が冒頭になっているが、見出しの順番だけを見ると「経営の効率化」が後ろになっている。あえてこういう意気込みということなのだろうが、見方によっては「経営の効率化」が後回しなのか、という感じもしなくはない。通読すればわかるのだが、見出しの順番だけ見ると少し抵抗を感じる方もおられるのではないかと。順番を直してくれと言っているのではない。あえてこうしているのかの確認だ。

もう一つ、「料金収入の確保」とあるが、中身は企業利用の地下水ではなく水道水を使って欲しい、という内容であり、その割にはタイトルのスケールが大きい。料金体系の見直しと関連付けたような見出しなので、ここは工夫した方がいいのではないか。

(水道局)

順番は、変化がある部分として、これを前に出す方がいいのではないかという判断で「料金体系の見直し」を冒頭に持ってきた。

確かに「経営の効率化」には、組織内のいろいろな見直しもあるが、水道事業の持っている経費構造の特殊性、受水費なども絡んでいるので、それらも含めて、料金関係の項目を前に出すのがいいのかどうか考えた。最初、料金水準と料金体系をご議論いただいていたので、料金水準であれば前に出すのはいかなものかと思っただが、料金体系については今回、市民の方々にも関心、意識を持っていただくという観点から、悩んだ末、前に持ってきた。

また、確かに、経費削減と収益確保というのは、企業会計の柱なので、収益の確保の努力は順番を前にしているが、水道事業は他の事業と違って収益確保の手段があまりない。

(委員)

今回の検討委員会に参加して、一番重要だと実感したのは今後の料金体系のことだ。

特に「現行の料金水準で将来に渡って維持することは困難である」ということで、「料金収入の確保」の末尾では料金体系について「研究していく必要がある。」となっている。私はかつて、公共料金である鉄道運賃とか、大阪ガス、関西電力の料金をグラフにしてみた。水道の場合は逓増性だが、鉄道や関電は逓減性だった。直線的に比例するところや、基本

水量の問題などもあるが、様々なケースをシミュレーションして、センシティブな問題もあるだろうけれども、オープンにできればいいと思っているが、そのようなシミュレーションは行ったのか？

(水道局)

料金体系については、そのあり方を検討すべきだという事で、特に固定費負担について意見を頂戴して、今後、その体系を具体的に検討していこうと考えている。実際、固定費負担を考えた料金の体系は、例えば松江市や京都市がやっているが、先例としてはまだ少ない。今後もさらに研究し、水道料金を改定する場合は、改めて上下水道事業審議会を開催し、諮問して議論していただく。経営状況については、4年間の中期経営目標や、10年間の長期収支での経営努力など検討しているので、ビジョンと併せて出させていただく。

(委員)

水源の問題、効率化の問題、様々なことがきちんと検証されて、中長期の見直しをした上で、料金体系の研究をすべき段階に来ているのかもしれないと思う。言わずもがなのことだが、料金をあげろという話ではない。

(水道局)

承知している。基本的に、まず経営努力をとことんしてから料金の変更をお願いしていかないといけないと考えている。

(委員)

先ほどの副題「市民・地域とともに」や、「市民とともにつくる」など、「お客さま」ではなくて「市民」という言葉を使っている。何気なく思われるかもしれないが、実は神戸市として並々ならぬ決意が込められていると感じる。私は、段階が3つあると考えており、以前は、こういう所では「住民」とか「事業者」という上から目線の言葉を使っていた。その後、「お客さま」というようになってきた。今では多くの場合、この「お客さま」という用語を使う。その「お客さま」の次にある言葉が「市民」という用語である。「市民」は大変重い言葉で、行政と一緒に参画・協働して、施策をともに進めていく人たち、つまり、責任の一端を担っていただく人たちのことである。このような場合、市ではなく町においても「町民」とは言わずに「市民」と言う。「お客さま」は実はそう簡単には「市民」にはなれない。かなり勉強していただかないといけない。この専門部会の市民代表の委員の方々というのは、言ってみれば「市民のお手本」だし、つい先日水道協会から表彰された岩手県矢巾町というところがあるが、まさに町民ではなく市民である。

当初、神戸市は「お客さま」という用語を使っていた。しかし、その後「市民」と書く決心をした。私は関西地方のいくつかの事業体の水道ビジョンづくりに携わせていただいているが、ここで市民を使ったのは神戸市が初めてではないかと思う。そういった前向きなことがこのビジョンには含まれているので、先ほど、副題を表紙に書いて、目立つようにすべきではないか、と申しあげたのはそういう意味である。



また、この答申では「市民」という言葉の他「利用者」「地域住民」「お客さま」「窓口」と、いくつかの用語を使い分けている。「市民」と言わなくていい所には「利用者」等の言葉が使われていて、結構ではないかなと思った。

(部会長代理)

副題は表紙の方に持ってくるという事で調整させてもらう。おっしゃるとおり、ここでの「市民」はパートナーとしての「市民」という位置づけである。

(水道局)

まさにそういった意味を込めている。特に、水道事業者から見れば、第1段階としては生産者としての上から目線があって、「お客さま」という言葉を使った段階で、「お客さま目線」であるが、今ではともに作っていく、協働という視点をお願いしていかざるを得ない。この専門部会の中で市民代表の委員の皆様をはじめ、一緒に作っていくというようなご意見を頂戴したので、その点については思い切って表現して、進めていきたい。

具体的に申しあげると、「水道アドバイザー制度」を今年度から「アクアサポーター制度」に改め、「利用者」という立場だけでなく、意見を頂戴して、ともに、一緒にやっていたくということを今後は模索しながらやっていきたいと考えている。

そういう意味で「市民とともに未来につなぐ」という副題をどうするか、調整する。

## 「その他」～専門部会全体について

(委員)

一市民として、利用することばかり考えていたが、事業を継続するためには、私たちも協力していかなければいけないと感じた。婦人会では毎年、水道事業の学習会をやっていて、今年は千苜貯水池に行かせていただく。参加者へのごあいさつの中で、文化遺産になっているという部分も含め、私がお話しすることで、広報になるのではないか。

最後にひとつ。以前、24時間対応の水道修繕受付センターに電話を1回かけたら、応対した人の対応が怖かったため「じゃあまた考えます」と言って切ってしまった。やはりサービスなので、怖いという印象を持たれないよう、よろしくお願ひしたい。

(委員)

審議した内容は、総合的で長期にわたる問題だったので、事務方の準備が毎回大変だったのではないかな。毎回毎回、きちんとしたデータを踏まえてご準備いただき、充実した議論ができた。どうもありがとうございました。